

## 第70回日本生物工学会大会

ノバ・バイオメディカル株式会社共催 ランチョンセミナー1LS3

日時：9月5日(水曜・大会1日目) 11:45-12:45

会場：LS3(第4学舎2号館)

## 培養プロセス中の成分分析の重要性 — 一回分、流加から連続製造に向けて —

演者： 大阪大学大学院工学研究科 生命先端工学専攻  
教授 大政健史先生

### 要旨

21世紀に入って動物細胞を用いた生産技術は長足の進歩を遂げ、さらに周辺技術も格段に発展し、10g/Lを超える生産例もいくつも報告されている。これらの長足の進歩は、特に2005年に世界の医薬品売上高ランキングベスト10に抗体医薬がランクインしてから顕著になった。特に、Chinese hamster ovary 卵巣由来細胞(CHO細胞)を用いた抗体医薬生産は、2010年ごろを境に、急速にCHO細胞を用いて生産される抗体医薬の上市数が増加し、現在では、48品目(米国市場)となっている。これらの高生産や、多数の上市が実現された背景には、高生産細胞の開発のみならず、培地を含めた培養プロセスの改良が大きな貢献をしている。

本講演では、動物細胞、特にCHO細胞を用いた抗体生産を例に取り上げ、最近の進歩ならびに、今後予測される連続生産における培養プロセスについて、培地成分分析の重要性の観点から解説する。

その他、ノバ・バイオメディカル株式会社より、細胞培養液分析装置のご紹介をさせていただきます。

お問い合わせ先



ノバ・バイオメディカル株式会社

〒108-0073 東京都港区三田3-13-16

三田43MTビル

TEL:03-5418-4141 FAX:03-5418-4676

MAIL:novablo@novabiomedical.co.jp

<http://www.novablomedical.com>